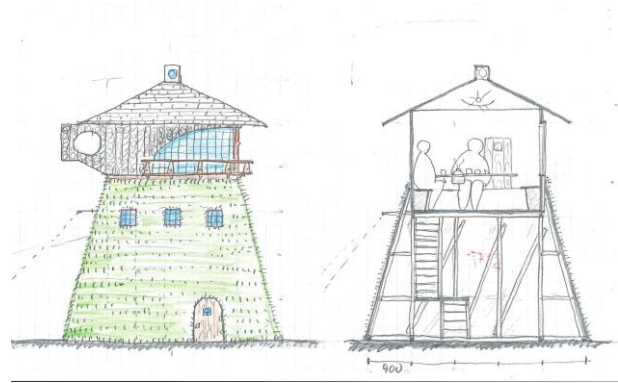


Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13 「パビリオン・トウキョウ 2020」 参加建築家・アーティスト決定のお知らせ



「焼杉のひさし」(仮称) 設計: 石上純也 <本プロジェクト案>



「茶室 2020」 設計: 藤森照信 <本プロジェクト案>

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団は、Tokyo Tokyo FESTIVALの一環として、「パビリオン・トウキョウ 2020」を実施します。本事業は、2020年に向けて新たな企画アイデアを広く一般から募集し、応募総数 2,436 件の中から選ばれた 13 企画「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル 13」の一つです。

「パビリオン・トウキョウ 2020」は 2020 年の夏に、世界各地で活躍し注目を集めている 7 名の日本人建築家・アーティストが設計した独自のパビリオンを都内各所に設置し、未来の建築やアートとして紹介するプロジェクトです。

この度、参加建築家・アーティスト及び開催概要が決まりましたので、お知らせいたします。

[開催概要]

- 1 会 期 令和2年(2020年)6月6日(土曜)から同年9月13日(日曜)まで(100日間)
- 2 会 場 新国立競技場を中心とする半径約3km圏内を予定 ※詳細は後日発表
- 3 参加建築家等 石上純也、妹島和世、平田晃久、藤本壮介、藤森照信、藤原徹平、会田誠
※建築家、アーティスト各五十音順
- 4 主 催 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、
パビリオン・トウキョウ 2020 実行委員会

※ 今後も制作過程などを WEB サイト等で随時公開していきます。

(裏面へ続く)

問い合わせ先

生活文化局文化振興部企画調整課

電話 03-5320-7736

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

電話 03-6256-8432

【 参加建築家・アーティスト プロフィール 及びパビリオンプラン 】



石上純也

1974 年生。東京藝術大学修士課程修了後、妹島和世建築設計事務所を経て、2004 年石上純也建築設計事務所を設立。日本建築学会賞、第 12 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞など受賞多数。主な作品に「神奈川工科大学 KAIT 工房」、「水庭」など。2018 年、パリのカルティエ現代美術財団で大規模個展を開催。



筒形のひさし (図解) 設計：石上純也 <本プロジェクト案>



妹島和世

1956 年生。日本女子大学大学院修了後、伊東豊雄建築設計事務所を経て独立。95 年に西沢立衛とともに SANAA 設立。主な作品に「金沢 21 世紀美術館」、「DIOR 表参道」、ルーヴル美術館の分館「ルーヴル・ランス」など。第 12 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展にて、日本人、そして女性として初めてディレクターを務める。プリツカー賞、日本建築学会賞、紫綬褒章他受賞多数。



雲のように浮かぶパビリオン (図解) 設計：妹島和世 <本プロジェクト案>



平田晃久

1971 年生。京都大学大学院修了後、伊東豊雄建築設計事務所を経て 2005 年に独立。主な作品に「Kotoriku」、「太田市美術館・図書館」など。第 13 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞、村野藤吾賞など受賞多数。2016 年にニューヨーク近代美術館の“A Japanese Constellation”展に参加。現在京都大学教授。



Glowbal bowl 設計：平田晃久 <本プロジェクト案>



藤本壮介

1971 年生。東京大学卒業後、2000 年に藤本壮介建築設計事務所を設立。主な作品に、「House N」、「武蔵野美術大学美術館・図書館」、ロンドンの「サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン 2013」など。2011 年の「台湾タワー」ほか、多数の国際設計競技で最優秀賞を受賞。現在、フランス、ベルギーなどで数々のプロジェクトが進行中。

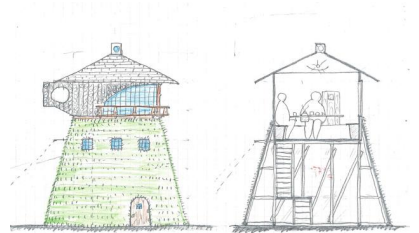


原初的な未来の塔 設計：藤本壮介 <本プロジェクト案>



藤森照信

1946 年生。東京大学大学院博士課程修了。現在、江戸東京博物館館長、東京大学名誉教授、工学院大学特任教授。近代建築史・都市史研究を経て 1991 年、45 歳のときに〈神長官守矢史料館〉で建築家としてデビュー。土地固有の自然素材を多用し、自然と人工物が一体となった姿の建物を多く手掛けている。建築の工事には、素人で構成される「縄文建築団」が参加することも。代表作に〈タンポポハウス〉、〈ニラハウス〉、〈高過庵〉など。近作に〈多治見市モザイクタイルミュージアム〉や「ラ コリーナ近江八幡」の〈草屋根〉、〈銅屋根〉などがある。



茶室 2020 設計：藤森照信 <本プロジェクト案>



藤原徹平

1975年生。横浜国立大学大学院修士課程修了後、隈研吾建築都市設計事務所にて、世界20都市以上のプロジェクトを担当。2009年に独立、2012年より横浜国立大学大学院Y-GSA准教授を務める。建築のみならず美術展の会場構成や、NPO法人ドリフターズインターナショナル理事として、建築・映画・ファッションなど異文化の融合が生み出す新しいプロジェクトを幾多の都市で実践している。

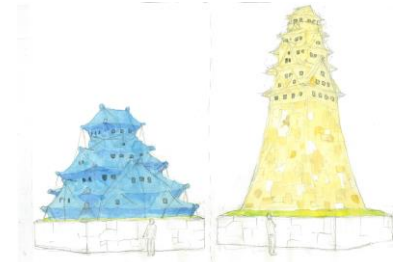


ストリートシアター 設計：藤原徹平 <プロジェクト案>



会田 誠

1965年生。東京藝術大学大学院修了。2012年、森美術館で大規模個展「天才でごめんなさい」を開催。平面作品に限らず、彫刻、パフォーマンス、映像など多彩な活動を行う。



東京館 2020 (モデルとブルーシート) 作：会田誠 <プロジェクト案>

※ 建築家、アーティスト各五十音順

※ 参加建築家・アーティスト及びプラン等は変更となる可能性があります。

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」とは

オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組です。



Tokyo Tokyo FESTIVAL
公式ウェブサイト

「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVALの中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。

国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」と総称し、オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて、順次展開していきます。



Tokyo Tokyo FESTIVAL
スペシャル13ウェブサイト

「2020年に向けた実行プラン」事業

本件は、「2020年に向けた実行プラン」に係る事業です。

「スマートシティ 政策の柱8 芸術文化の振興」

本件は、「ホストシティ Tokyo プロジェクト」に係る事業です。

「カテゴリー：魅力発信 プロジェクト名：東京文化プログラムの拡充・推進」